

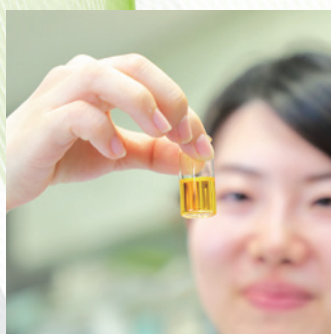
T o k y o U n i v e r s i t y o f S c i e n c e

Faculty of Pharmaceutical Sciences

Department of
Pharmacy

東京理科大学薬学部

| 薬学科



Department of Pharmacy

薬学部

薬学科

薬学全般に亘る幅広い知識と技能を備え、
病院や薬局などの医療現場や企業等で活躍することのできる高度な問題解決能力と
ヒューマニティを併せもった薬剤師の育成を目指します。
定員100名の少数精鋭に対して、
東京理科大学の伝統である実力主義に基づいた密度の高い教育を実施します。

薬学科の理念

「医薬分子をとおして人間の健康を守る」という薬学部の理念に基づき、高度化する医療に対して貢献することのできるヒューマニズムと研究心にあふれた高度な薬剤師（医療人）の養成を目的としています。そのために、医薬品の投与法、安定性、作用機序、体内動態等の薬剤師の職能の基盤となる専門的知識及び関連する技能、態度を習得します。さらに、生命の尊厳と患者の苦しみを
知る人間性を培うとともに、国民の健康と福祉を守るうえで重要とされる医薬品の安全で適正な
使用と医療過誤等に対する適切な問題解決能力を養うことを教育目標とします。

● 学科の特徴

薬学科はヒューマニティと高度化する医療に適切に対応できる研究心を兼ね備えた薬剤師の
育成を目指しています。

● 学びの特徴

薬学科は徹底した基礎教育、クスリの作用に関する総合情報科学を中心とした薬学専門教育、
充実した施設と医療機関との連携による実践的薬剤師職能教育を実施します。

研究施設紹介

● 医療薬学教育研究センター



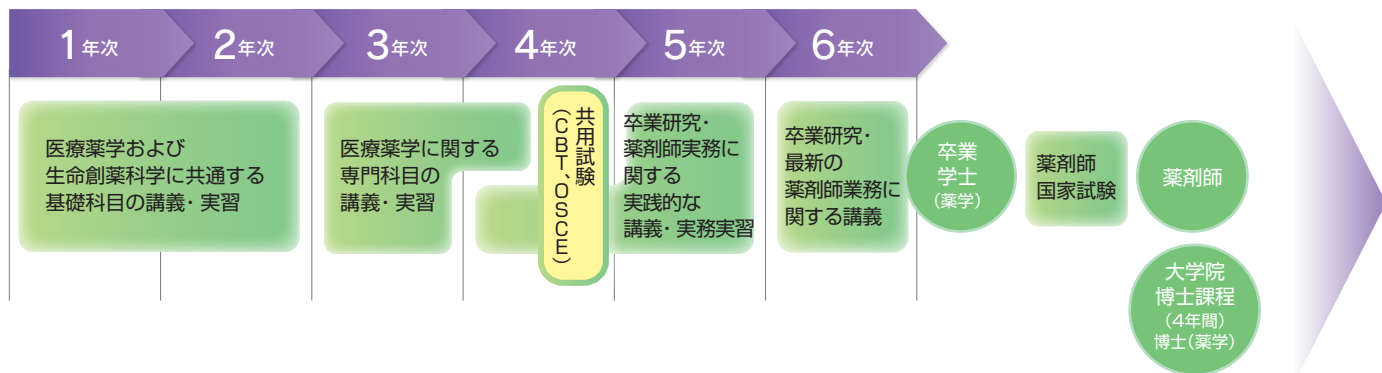
薬学科（6年制）では、5年次に病院と薬局での実務実習を行うため、その前の4年次に薬剤師業務について実習する医療薬学実習が必修科目となっています。この実習は、調剤実習室、模擬薬局、病棟実習室、無菌調剤実習室、製剤実習室、プレナリー室、情報教育室などを完備した医療薬学教育研究センターで実施します。これらの施設は、薬学共用試験のOSCE、認定実務指導薬剤師養成および地域薬剤師の生涯研修など多目的に使用されています。

● 薬用植物園（葉草園）



薬学部は薬用植物園を設置することが義務付けられており、本学では野田薬学部キャンパスの南側にあります。ここでは漢方薬の構成生薬や医薬品原料となる基原植物約700種を見ることができ、学生実習の教材や、研究素材も栽培しています。また、学部講義・実習や生涯学習における薬草観察の場として提供され、生きた教材に触れられます。

卒業までのステップ&卒業後の進路



卒業後の主な進路

- 病院薬剤師 ● 薬局薬剤師 ● 医薬品製造管理者 (製薬企業)
- 創薬研究者 (企業・大学・研究機関等) ● 開発担当者 (製薬・化粧品・食品等)
- 生産技術者 (製薬・化学工業等) ● 医薬情報担当者 (MR)
- 国家公務員・地方公務員 など

カリキュラム

	1年次	2年次	3年次	4年次	5年次	6年次
一般科目	英語／英会話／実践薬学英語／心理学／経済学／倫理学 など					
ヒューマニズムについて学ぶ	薬学入門／医療コミュニケーション／医療の倫理／早期体験学習 など					
物理系薬学	薬品物理化学／分析化学／放射科学／薬品物理化学実習／分析化学実習 など			共用試験 (CBT、OSCE)	薬学科卒業研究	
化学系薬学	基礎化学／有機化学／天然物化学／医薬化学／薬用植物学／生薬学／有機化学実習／医薬資源学実習 など					
生物系薬学	生化学／免疫学／分子生物学／機能形態学／微生物学／生物化学実習 など					
衛生薬学	栄養と健康／生活環境と健康／化学物質の生体影響／衛生薬学実習 など					
医療薬学	薬理学／薬物治療学／疾病と病態／薬剤学／製剤学／薬物動態学／薬理学実習／薬剤学実習 など					
臨床薬学	薬剤師と法律／調剤学／医療薬学実習／病院実習／薬局実習／ケアコロキウム／薬物治療の個別化 など					
情報科学	情報リテラシー／統計学／推計学／医薬品情報学／医薬品情報学演習／臨床統計とデザイン など					



教員紹介

Faculty Members

[五十音順]



QRコードを読み込んで先生のホームページへアクセス！

バーコード読み取り機能がついたスマートフォン・カメラ付き携帯電話で読み取ることによって簡単にアクセスできます。



青山 隆夫
教授

研究室名：青山研究室
専門分野：医療薬学・薬物治療学
研究分野：薬物治療学

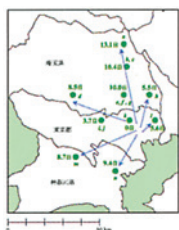
抗がん剤のシスプラチンとカフェインの併用による新規薬物療法の開発、スピロラク톤を用いた難治性にきびの治療薬の開発、アスピリンの抗血小板作用への他剤の影響や肺MAC症に用いる抗菌剤の薬物相互作用の解明などです。多くは病院・薬局の薬剤師や医師との共同研究です。



伊集院 一成
嘱託教授(みなし専任)

研究室名：伊集院研究室
専門分野：社会薬学・医療薬学・ヘルスヴィジランス
研究分野：薬局管理学

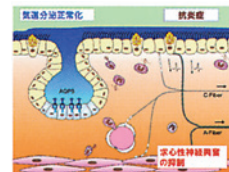
医薬品の使用量を通して地域住民の健康状態を捉える概念をヘルス・ヴィジランス(Health Vigilance)と呼びます。医薬品使用量を解析し、地域住民の健康状態を捉え、薬剤師が薬局を通して地域住民に向けて発信すべき情報を探究していきます。また、IoTを活用した薬剤師支援システムに関する研究を行います。



磯濱 洋一郎
教授

研究室名：磯濱研究室
専門分野：呼吸器病態生理学・呼吸器薬理学・漢方薬理学
研究分野：応用薬理学

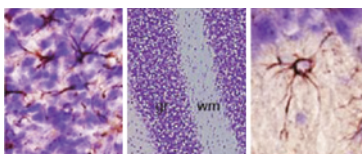
本研究室では気管支喘息やCOPDなどの慢性炎症を基礎とする難治性呼吸器疾患の治療法を確立するために、病態が形成される仕組みや一定の効果が期待できる薬物の作用を調べています。特に、気道分泌を正常化するための新規標的分子の探索や漢方薬等の伝統医薬品に隠された薬理学的特徴の解明を通じて、新たな治療概念の提唱を目指します。



市原 学
教授

研究室名：市原研究室
専門分野：環境労働衛生学・神経毒性学・分子予防医学
研究分野：衛生化学

環境要因によって引き起こされる病気を予防するために、化学物質のヒト中枢神経への影響・発がん性の仕組みを明らかにする研究を行っています。研究ではヒト、実験動物、培養細胞というさまざまなレベルの系、医学・分子生物学・化学的手法を用います。



鍛冶 利幸
教授

研究室名：鍛冶研究室
専門分野：環境毒性学・血管細胞生物学・バイオオルガノメタリクス
研究分野：環境健康学

本研究室では、「環境と健康の接点を科学する」立場から、環境汚染物質の一つである重金属の毒性発現機構の解明に取り組むとともに、その機構の基盤となる微小環境の変化に対する細胞の異常な応答の解明も行っています。現在、有機-無機ハイブリッド分子の生物学-バイオオルガノメタリクス-を世界に先駆けて展開しています。



上村 直樹
嘱託教授(みなし専任)

研究室名：上村研究室
専門分野：社会薬学・医療薬学・医薬品情報学
研究分野：薬局管理学

薬局における業務や設備、経営、アメニティーなどを科学的に研究しています。医薬品の外箱、PTPシート、添付文書などの色や表示方法が識別に与える影響を調査し、調剤過誤防止に役立てる研究やデジタルサイネージ(電子掲示板)を利用した待ち時間の軽減効果や情報伝達効果の研究をしています。



斎藤 顕宜
教授

研究室名：斎藤研究室
専門分野：精神・神経薬理学
研究分野：行動薬理学、創薬薬理学、神経科学

薬理学は、身体の仕組みを理解しながら、薬が持つ生体機能への影響を解析する学問です。本研究室では、こころと脳の病気、例えばうつ病や不安症、依存症がなぜ起きるのかを研究しています。病気のモデル動物・組織・細胞を用いた実験により、脳内の神経回路や関連する物質・分子を理解し、新しい治療薬・予防法の開発を目指しています。





鹿野 真弓
教授

研究室名：鹿野研究室
専門分野：医薬品評価学
研究分野：レギュラトリーサイエンス、
医薬品規制

レギュラトリーサイエンスは医薬品等の開発や使用の膨大な経験に基づき「科学技術を人間との調和のうえで最も望ましい形にレギュレート（調整）する科学」として提唱されました。革新的技術の特徴に応じた品質・有効性・安全性評価の考え方を整理し医療に役立てるとともに、製品の開発・流通のグローバル化も踏まえ、製品のベネフィット・リスク比の向上を目指す活用法の国際的コンセンサス形成を目指します。



鹿村 恵明
嘱託教授（みなし専任）

研究室名：鹿村研究室
専門分野：医療薬学・社会薬学
研究分野：薬局管理学

薬局機能に関する研究を通して、全国の薬局の実態を「見える化」し、不足している部分を補い、長所を伸ばすPDCAサイクルの実施につなげて、薬局業務の質を高め、国民の健康に貢献することを目的としています。

処方せん受取率と薬学的疑義照会による処方変更率の比較



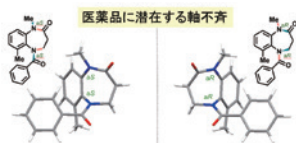
薬学的疑義照会件数に対する処方変更件数の割合（処方変更率）は、「低得点群」で69.9%、「高得点群」で78.2%となり、両群で有意な差が認められた。
※低得点群の進展が、薬学的疑義照会による医薬品適正使用につながることで示唆された。



高橋 秀依
教授

研究室名：高橋研究室
専門分野：薬化学
研究分野：創薬化学、臨床医薬品化学

医薬品の構造に潜在している軸不斉を表出させ、より良い医薬品をつくる創薬化学研究に取り組んでいます。癌やアルツハイマー病、希少病であるMenkes病の治療薬の開発など、「薬をつくりたい」という思いを胸に研究に励んでいます。



西川 元也
教授

研究室名：西川研究室
専門分野：生物薬剤学・薬物動態学
研究分野：生物薬剤学・
ドラッグデリバリーシステム

疾患治療を目的として生体に投与される「クスリ」がその機能を最大限発揮するには、クスリとヒトとの相互作用の解明が必須です。本研究室では、疾患治療の最適化に向けて、生物薬剤学・薬物動態学などの学問を基盤として、クスリの体内動態を精密に制御可能なデリバリーシステムの開発研究に取り組んでいます。

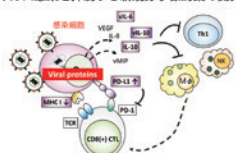


野口 耕司
教授

研究室名：野口研究室
専門分野：感染分子標的学
研究分野：生物系薬学、ウイルス学、
腫瘍治療学

感染症、例えば風邪症状や季節性インフルエンザなどでは、それぞれに特異的な分子を標的とする抗生剤や抗ウイルス薬が処方されます。がんの薬物治療では、がん特異的な分子機構を標的とする特別な抗がん薬が処方されることがあります。また、ウイルス感染が原因となるがんもあります。このように感染症やがんの治療薬には、それぞれの原因に特異的な分子機構を狙った分子標的薬と呼ばれるものがあります。本研究室では、ウイルス感染症やがんの特異的な分子機構を明らかにし、創薬へ繋げる「分子標的創薬」を目指しています。

ウイルス感染を抑制する新規分子標的薬の開発へ



羽田 紀康
教授

研究室名：羽田研究室
専門分野：生薬学・漢方医薬学
研究分野：生薬学・天然物化学・糖化学

我々は「自然が生み出す天然物を、人の健康に役立てる」ことを目標に以下の研究を行っています。

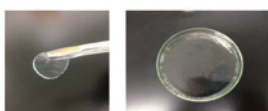
1. 薬用植物の薬用部位、生育時期の違いによる成分変動解析
2. 漢方薬の有効性を成分の相互作用から解明
3. 機能性植物の成分探索
4. 生物活性を有する糖鎖の合成



花輪 剛久
教授

研究室名：花輪研究室
専門分野：製剤工学、臨床製剤設計学
研究分野：臨床製剤学

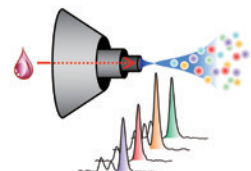
科学の粋を集めて開発された優れた医薬品も正しく投与されなければ薬物治療は成功しません。私たちの研究室は、薬物治療の個別化を成功させるための“テーラーメイド製剤”、そして、広い世代の患者さんが服用・使用できる“患者に優しい製剤”の開発について研究しています。これまでにジルコニアビーズを用いた医薬品の微粒子化、ハイドロゲル、フィルムなどの製剤設計に取り組んでいます。



東 達也
教授

研究室名：東（達）研究室
専門分野：臨床分析科学
研究分野：分析科学

被検者の負担の少ない試料（例えば唾液や1滴の血液）からピコグラムレベルの生体分子を検出し、その情報を診断や治療に役立てる—クロマトグラフィーと質量分析を駆使し、また新しい分析試薬を開発してこの課題にチャレンジしています。





堀口 逸子 嘱託教授

研究室名：堀口研究室
専門分野：公衆衛生学
研究分野：リスクコミュニケーション

食品安全、感染症、医薬品等のリスクについて、一般の人々にどのように認知されているのか社会調査法によって明らかにしていきます。また、リスクの受容のためのコミュニケーションを支援するツールの開発・評価等、リスクコミュニケーションの研究をすすめています。

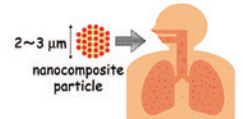
リスクアナリシス



牧野 公子 教授

研究室名：牧野研究室
専門分野：DDS・コロイド科学
研究分野：薬品物理学

「身体が必要としているときにだけ、必要な部位にだけ、必要最小量の薬を到達させる」というドラッグ・デリバリー・システム (DDS) の概念を、種々の疾病治療に対して実現するためには、薬をいつ、どこから入れるか？どんな速度で出すか？そして、どのようにして、ある臓器に集める(標的化する)かが重要です。



山下 親正 教授

研究室名：山下研究室
専門分野：製剤設計学・DDS・吸入システム
研究分野：製剤学・薬剤学

山下研究室では、世界における第3位の死亡原因であるにも関わらず、現在、対症療法しかない慢性閉塞性肺疾患 (COPD) に対する根治治療法の確立を目指して、肺胞再生というアプローチで、標的分子を見出し、その分子を最大限活かすことのできるDDS (ドラッグ・デリバリー・システム) の開発を行っています。

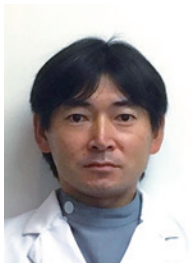
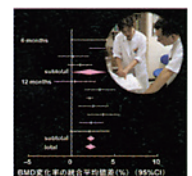
また、うつ病やアルツハイマー病等に効く神経ペプチドを経鼻投与により、効率良く作用部位である脳へ送達することのできる新しい概念に基づいた中枢デリバリー技術の開発も行っています。



嶋田 修治 准教授

研究室名：嶋田研究室
専門分野：医薬品情報学・臨床薬理学
研究分野：医薬品評価学

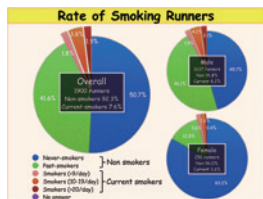
先端技術の結晶である医薬品は、モノ(薬剤)と情報がそろったときに初めてその真価を発揮しますが、十分な情報が医療現場に提供されていない場合もあります。医薬品情報を適正に収集、評価および提供できる薬剤師は、患者の安全を守る最後の砦になるでしょう。本研究室では、医薬品の適正使用に向けた情報を医療現場に提供することを目指しています。



鈴木 立紀 准教授

研究室名：鈴木研究室
専門分野：健康スポーツ学
研究分野：臨床薬理学・禁煙学・アンチドーピング

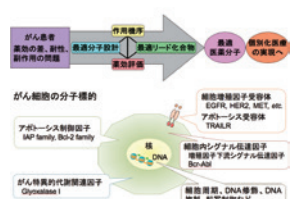
今後予想される超高齢化社会ではいかに健康寿命を延ばすかが重要で、生涯スポーツの拡大や禁煙化の推進もその一翼を担うと期待されています。本研究室では薬学的な視点から、生涯スポーツ愛好家がより健康にスポーツに取り組めるため、また、療養型病院の入院患者がより健康に入院生活を送れるための研究を行っています。



高澤 涼子 准教授

研究室名：高澤研究室
専門分野：分子生物学
研究分野：医療分子生物学

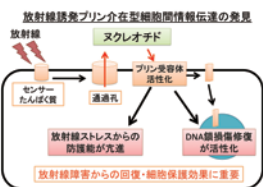
がん治療において、抗がん剤耐性がん細胞にも高い効果を示し、がん細胞特異的に作用する治療薬の開発が求められています。私共は、がん細胞の生存・増殖維持に重要な役割をもつタンパク質をターゲットとし、in silico創薬手法を用いて新規分子標的制がん剤リード化合物の創製を目指します。



月本 光俊 准教授

研究室名：月本研究室
専門分野：放射線生物学
研究分野：放射科学

放射線生物影響には未解明点が多く、放射線治療向上のためにはその分子メカニズムを解明する必要があります。当研究室では、放射線の細胞作用メカニズムを明らかにし、放射線治療の改善・向上に繋げていきたいと考えています。



根岸 健一 准教授

研究室名：根岸研究室
専門分野：臨床薬学・実務薬学
研究分野：医療薬学

薬剤師が患者の薬物治療に責任を持ち貢献できることは、薬剤師の本質的な使命であると考えます。6年制教育では、それに必要な知識・技能・態度を学びますが、本研究室では、さらに実務を通じて、現状の課題や改善点を見つけ、解決策を提案・実行する実践的研究を行うことで、薬物治療向上に貢献できる薬剤師となってもらいたいことを目指しています。

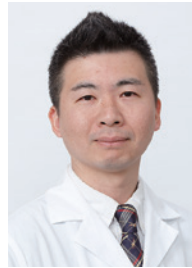
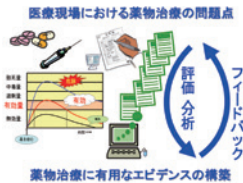




真野 泰成
准教授

研究室名：真野研究室
専門分野：医療薬学・臨床薬剤学・
医薬品情報学
研究分野：臨床薬剤情報学

本研究室では臨床現場で直面するさまざまな問題点を抽出し、その問題点の解明とともに新たな薬学的エビデンスを構築し臨床にフィードバックすることを目指しています。医薬品の体内動態や薬効・副作用を考慮した最適な投与設計法の開発や、大規模医療データベース（いわゆる医療ビッグデータ）を利用した医薬品適正使用に関する研究を行っています。



吉澤 一巳
准教授

研究室名：吉澤研究室
専門分野：緩和医療薬学・臨床精神薬理学
研究分野：疾患薬理学

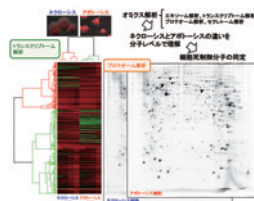
日本の死亡原因第1位は悪性新生物、つまり“がん”です。したがって、がん治療・がん研究の発展は日本にとって急務な課題です。そのがん治療と両輪をなす緩和医療とは、がん患者の抱える痛みやつらさに耳を傾け、その症状を緩和する医療です。本研究室では、緩和医療の中心である“こころとからだの痛み”に焦点を当てた薬学研究を行っています。



佐藤 聡
講師

研究室名：佐藤(聡)研究室
専門分野：細胞死制御、腫瘍生物学、
核酸化学
研究分野：生化学、分子生物学

細胞がネクローシス（壊死）で死ぬかアポトーシス（プログラムされた細胞死）で死ぬかを決定づける制御機構の詳細は明らかになっていません。この仕組みの理解は、新たな抗がん剤の開発に繋がると考えています。



佐藤 嗣道
講師

研究室名：佐藤(嗣)研究室
専門分野：薬剤疫学・医薬品リスク管理・
社会薬学
研究分野：医薬品情報学

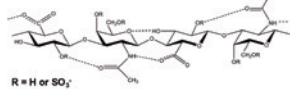
最善の治療法を選択するには、薬のベネフィット（期待される効果）とリスク（副作用の可能性）を評価することが必要です。そして、より適切な使い方によりリスクを減らすことができます。本研究室では、医療現場で実際に使われている薬のリスクを評価し最小にすることを目的とした研究を行っています。



東 恭平
講師

研究室名：東(恭)研究室
専門分野：病態分析化学
研究分野：病態分析化学、病態生化学

私達の身体を構成するタンパク質の約7割に糖鎖が付加されていますが、構造に多様性があるため分析が難しく、その機能はほとんど明らかになっていません。本研究室では、信頼性が高く高感度な糖鎖分析法を駆使し、生体試料から抽出した糖鎖構造の解明とその機能性を調べています。更に、新しい微量分析法の開発に挑戦し、疾患に伴う糖鎖構造の変化から病態メカニズムの解明を目指しています。



安元 加奈未
講師

研究室名：安元研究室
専門分野：天然物化学・薬用植物学
研究分野：天然医薬資源学

古来から植物は人間の衣食住に深く関わり、医薬資源としても重要な役割を果たしてきました。植物が作り出す未知の化学物質は、薬として利用できる可能性があります。本研究室では、難治性熱帯感染症（リーシュマニア症）に対して有効な植物の化学成分を探索し、治療薬に繋げることを目標としています。また、熱帯地域などで伝統的に医療に用いられている薬用植物について、有効成分とその機能の解明などにも取り組みます。



河野 弥生
嘱託特別講師

研究室名：花輪研究室
専門分野：製剤工学、臨床製剤設計学
研究分野：臨床製剤学

科学の粋を集めて開発された優れた医薬品も正しく投与されなければ薬物治療は成功しません。私たちの研究室は、薬物治療の個別化を成功させるための“テーラーメイド製剤”、そして、広い世代の患者さんが服用・使用できる“患者に優しい製剤”の開発について研究しています。



竹内 一成
嘱託特別講師

研究室名：牧野研究室
専門分野：薬品物理化学、DDS
研究分野：薬品物理化学

薬の効果を高めて副作用を減らすためには、皮膚や肺などを介した薬物の投与が有用です。私たちは微粒子製剤に着目し、これらの投与経路の活用を目指しています。

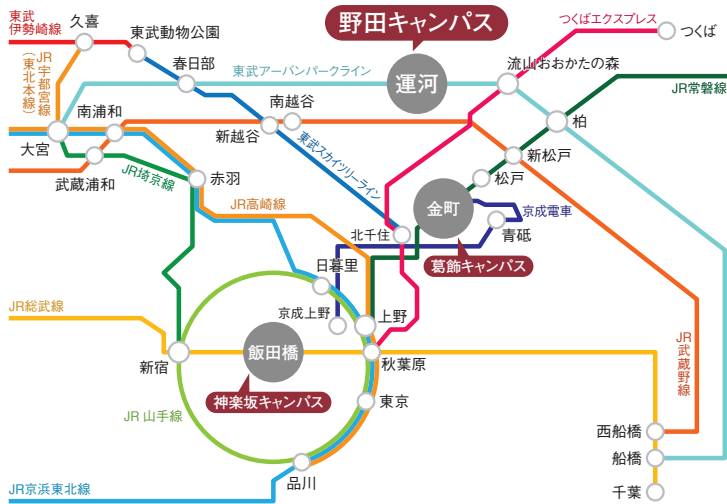


吉田 映子
嘱託特別講師

研究室名：鍛冶研究室
専門分野：環境毒性学（重金毒性）・
環境生物学
研究分野：環境健康学

我々は環境中に存在する様々な化学物質などの有害因子に曝されています。私たちは水俣病の原因物質としても知られる環境汚染物質メチル水銀による血管病変（脳微血管への影響）および末梢神経障害の発症機構の解明に取り組んでいます。

ACCESS



東武アーバンパークライン「運河駅」下車 徒歩 12分

- 秋葉原駅から 【つくばエクスプレス】流山おおたかの森駅 乗り換え
【東武アーバンパークライン】運河駅まで [約32分]
- 東京駅から 【JR山手線】秋葉原駅 乗り換え
【つくばエクスプレス】流山おおたかの森駅 乗り換え
【東武アーバンパークライン】運河駅まで [約38分]
【JR山手線】上野駅 乗換え
【JR常磐線快速】柏駅 乗り換え
【東武アーバンパークライン】運河駅まで [約49分]
- 上野駅から 【JR常磐線快速】柏駅 乗り換え
【東武アーバンパークライン】運河駅まで [約40分]
- 新宿駅から 【JR中央・総武線】秋葉原駅 乗り換え
【つくばエクスプレス】流山おおたかの森駅 乗り換え
【東武アーバンパークライン】運河駅まで [約49分]
【JR山手線】日暮里駅 乗り換え
【JR常磐線快速】柏駅 乗り換え
【東武アーバンパークライン】運河駅まで [約60分]
- 千葉駅から 【JR総武線】船橋駅 乗り換え
【東武アーバンパークライン】運河駅まで [約58分]
- 大宮駅から 【東武アーバンパークライン】運河駅まで [約49分]
- つくば駅から 【つくばエクスプレス】流山おおたかの森駅 乗り換え
【東武アーバンパークライン】運河駅まで [約27分]

※乗換え時間は含みません



東京理科大学

薬学部 入試に関するお問い合わせ先
入試課 TEL:03-5228-7437

薬学事務課：〒278-8510 千葉県野田市山崎2641 TEL:04-7121-3691 FAX:04-7121-3608
[大学Webサイト] <https://www.tus.ac.jp/>
[薬学部Webサイト] <https://www.ps.noda.tus.ac.jp/>